

外来種情報の向上を目指し行動計画策定

生物多様性条約（CBD）により開催された政府専門家会合において、侵略的外来種の拡散に関する情報の政策決定における活用を強化することを目的として、広範な計画が承認されました。

この計画は、コペンハーゲンにあるGBIF事務局で9月に開かれたワークショップで作成され、モンテリオールで開催されたCBDの科学技術助言補助機関（SBSTTA）に提示されました。

この共同計画

<http://www.cbd.int/doc/?meeting=sbstta-15>の（<http://www.cbd.int/doc/?meeting=sbstta-15>の）UNEP/CBD/SBSTTA/INF/14を参照のこと）では、約50のアクションポイントに関わる8情報サービス機関を結びつけることにより、異なるデータベースやネットワークに保存されている侵略的外来種情報の統合・調和を目指します。



ホテイアオイ (*Eichhornia crassipes*)

共同計画のうち、GBIFが担当する活動には、以下のものがあります。

- ダーウィン・コア形式 (DwC) を用いるデータ公開機関が保有する外来種情報の統合
- GBIFインテグレートド・パブリッシング・ツールキット (IPT) を用いた外来種データ公表の促進
- GBIFデータ・ポータル上に表示される生物種の「タグ付け」を行い、各国の外来種リストを容易に抽出可能にする他、数百万件の外来種データを他の情報システムに提供
- グローバル・ネームズ・アーキテクチャ（異なる分類データやチェックリストで使用される名称を特定するためにGBIFが策定した規格）の使用促進
- 外来種データに関し不足している部分を特定すると共に、外来種データの活用方法を作成

詳細については[こちら](#)をご覧ください。

科学と政策 2

GBIFデータ活用により環境と種の関連性が明確に

データ公開方法をドライアド・データ・レポジトリと統合 - Pensoft ジャーナル

南米にウシガエル拡散の恐れGBIFデータにより研究

GBIFデータを用いて東アフリカにおけるコーヒー害虫拡散モデルを作成

GB18と科学シンポジウム 2

生物多様性データ公開のトレーニングコース

新事務局長発表される

賞金3万ユーロのエビー・ニールセン賞
デンマークの科学者が受賞

インフォマティックス 3

改良版GBIFデータポータル運用開始

生物多様性データ共有に向けた国際協力

GBIFコミュニティの活動 4

ボランティア用ポータルサイト開始
オーストラリア

フランス語版GBIFトレーニングマニュアル発行される
ノード用ウェルカム・ボックス発表

公表データ 4

新規データ公開機関

その他のデータセット

今後のイベント予定 5

東アフリカ生物多様性データ・情報管理コース

GBIFフランス主催生物多様性データ解析・活用ワークショップ

永久識別子に関するトレーニングコース

VertNet 生物多様性インフォマティックス
トレーニングワークショップ

科学と政策

GBIFデータ活用により環境と種の関連性が明確に

GBIFデータ・ポータルを介してアクセスが行われる膨大なほ乳類データを解析することにより、特定の地域に存在する生物種に対して環境因子が及ぼしている影響が明らかになりました。

イスラエルのハイファにあるイスラエル工科大学(通称「テクニオン」)の研究チームは、アラスカ州を除くアメリカ本土48州に生息するほ乳類のうち、詳細な分布座標データがある種について、分析を行いました。

GBIFネットワークを通して公開されている70の国際規格データセットを用いて、284種308,000件のデータと環境因子との関連づけを行いました。その際、解像度は最小サイズが20~10,000平方キロ、範囲を20,000~1千万平方キロとする10種類の空間スケールを用いました。筆頭著者であるラフィ・ケント氏は、「この研究が行えたのは、GBIFポータルにより、データに自由にアクセスできたおかげです。」と述べています。

[PLoS Oneに公開された研究結果](#)からは、スケールが大きく解像度が低い場合には、ほ乳類の構成に最も影響を及ぼしているのは気候であり、スケールが小さく解像度が高くなると、土地利用・土地被覆(ヒトによる土地の利用や自然植生)の重要性が増すことが示されています。

詳細については[こちら](#)をご覧ください。

データ公開方法をドライアド・データ・レポジトリと統合—Pensoftジャーナル

GBIFとPensoft出版社とが引用可能なデータ論文の作成に関する協力関係を締結したことを受けて、Pensoft社が発行する8ジャーナルにおいて、データ公開方法がドライアド・データ・レポジトリと統合され、データ管理が容易に行えるようになりました。

詳細については[こちら](#)をご覧ください。

南米にウシガエル拡散の恐れGBIFデータにより研究

GBIFを介したデータを用いた研究により、大西洋岸森林の生物多様性ホットスポットにアメリカウシガエル侵入の危険性があることが判明し、アンデス・パタゴニアの森林地帯、パラグアイ東部及びボリビア北西部では、ウシガエルの侵入に適した環境条件となる可能性について警鐘を鳴らしています。

詳細については[こちら](#)をご覧ください。

GBIFデータを用いて東アフリカにおけるコーヒー害虫拡散モデルを作成

コーヒー豆穿孔虫(*Hypothenemus hampei*)は、アフリカに自生する甲虫類であり、世界で最も有害なコーヒー果実の害虫です。東アフリカの気温上昇により、高温を好むこの昆虫の分布が拡散してしまいました。GBIFを介して入手したデータを活用した最近の研究では、コーヒー栽培地域におけるこの虫の分布予測が行われています。

詳細については[こちら](#)をご覧ください。

GB18と科学シンポジウム

9月28日から10月7日まで、アルゼンチンのブエノス・アイレスにおいて、[第18回理事会\(GB18\)](#)と関連イベントが開催されました。

10月4~6日に開催された理事会には、30ヶ国及び12国際機関の代表の他、オブザーバーが出席しました。同市において、諮問委員会や各国ノードのトレーニングコースの他、GBIF年次科学シンポジウムも開催されました。

生物多様性データ公開のトレーニングコース

GB18関連イベントの一環として、各国ノードを対象とした3日間のトレーニングコースが開催されました。このワークショップでは、生物多様性データ公開方法の新たなオプション、データ探索・公開戦略の策定方法の他、データ品質や用途に応じた適正使用について、ノード管理者に情報提供を行いました。

このトレーニングコースには、36の国と機関から43名が参加し、セッションは、英語、フランス語及びスペイン語により同時進行しました。ノード管理者によるコースの事後評価では、メタデータの取り扱い及びダーウィン・コア(DwC)形式の使用に関するセッションに高い関心が集まりました。また、複数の言語で資料を作成し、進行が行われたことについても、肯定的な評価が示されました。

新事務局長任命される

GBIF理事会では、ドナルド・ホバーン(Donald Hobern)氏を新たに事務局長に任命しました。ホバーン氏は、現在[アトラス・オブ・リビング\(ALA\)オーストラリア](#)の代表を務めており、事務局長には2012年の1月末に着任します。新事務局長は、2012~16年度GBIF新規戦略計画の開始に合わせて、コペンハーゲンにある事務局に赴任します。この計画では、データ・コンテンツ、インフォマティクス及び世界的なネットワークに向けた取り組みを推進することとなっています。



ホバーン氏の任命の他、理事会では、2012～13年度のGBIF活動計画や2012年度補正予算の承認、ジョアン・ダリー (Jaonne Daly) GBIF議長への再任を行いました。

詳細については[こちら](#)をご覧ください。

賞金3万ユーロのエビー・ニールセン賞 デンマークの科学者が受賞

GB18と関連して開催されたイベントとして、2011年エビー・ニールセン賞の授賞式も行われました。今年の受賞者は、デンマークのオーフス大学の経済インフォマティクス・生物多様性学教授イェンス・クリスチャン・スヴェニング (Jens-Christian Svenning) 博士です。この賞は、生物系統分類学や生物多様性インフォマティクス技術の新たな活用法を提示した研究に対して、毎年GBIFにより贈られるものです。

スヴェニング教授の研究は、マクロ生態学の分野に関するもので、生物と環境との関連性を巨視的に取り扱うことにより、生物種の豊富さ、分布及び多様性に関する状況を示しました。

スヴェニング博士は、「GBIF at 10: Reaping Benefits for Science and Society (10歳を迎えるGBIF—科学的・社会的利益を収穫する)」と題した2011年度GBIF科学シンポジウムにおいても研究発表を行いました。この会議は、GB18に続いて10月5日にブエノス・アイレスで開催されたものです。シンポジウムでは、その他にも、加盟国ノードやテーマ別ノードを代表する8名の講演者により、GBIFがこの10年間で成し遂げた働きや影響について、発表が行われました。

詳細については[こちら](#)をご覧ください。

科学シンポジウムで発表された内容は、<http://www.gbif.org/communications/news-and-events/gbif-symposia-and-workshops/gbifannual-science-symposium/#c2118>からダウンロード可能です。

シンポジウムの要約は、http://www.iisd.ca/ymb/gbif/sc2011/brief/brief_gbif_sc2011.htmlでご覧になれます。

インフォマティクス

改良版GBIFデータ・ポータル運用開始

GBIFデータ・ポータルの大幅な改善により、ポータルサイトからアクセスするデータの品質及び利便性が向上しました。

GBIF事務局の技術者が世界中の仲間と協力して、1年掛けて作業を行った結果、今回の改善に結びつきました。

今回、新規データ入力からポータルサイトに表示されるまでの作業時間を短縮し、不正確な地理情報や分布種情報を整理除去すると共に、種チェックリストをインデックス化し、ポータルを介してアクセス可能なデータベースとしました。



GBIFデータ・ポータルに表示されるクリーンアップ後のデータ例 (アメリカ)

試行期間の後、3億1千2百万件の生物多様性データ (8500データセット及び340のデータ公開機関) に対して、以上の修正が実施されています。

詳細については[こちら](#)をご覧ください。

生物多様性データ共有に向けた国際協力

GBIFとエンサイクロペディア・オブ・ライフ (EOL) とは、生物多様性データを科学や社会に活用することを目指した、新たな技術協力を進めることに合意しました。

GBIFの協力団体であるEOLでは、GBIFが採用しているダーウィン・コア形式 (DwC) から派生し、互換性があるデータ規格を用いているコンテンツ提供機関から、情報を入手することができるようになりました。今回の技術協力の目的は、単一の公開プロセス処理によって、両機関のシステムを通じてデータがアクセス可能となることであり、科学者、政策決定者を始めとして、学生や一般まで幅広い層の人々が利用できるようになります。

前号のGBitsでも報告したように、8月に公開されたEOLの新バージョンでは、各生物種のページにある地図タブに表示される地図が改訂されており、GBIFネットワークで公開し、GBIFデータ・ポータルでアクセス可能な情報に基づいて、分布場所が表示されるようになっています(例えば<http://eol.org/pages/1045608/maps>参照)。この地図情報は、GBIFインデックスの改訂が行われるたびに、自動的に改訂が行われます。

詳細については[こちら](#)をご覧ください。

GBIFコミュニティの活動

ボランティア用ポータルサイト開始 オーストラリア

アトラス・オブ・リビング (ALA) オーストラリアは、オーストラリア博物館と協力して、国内の博物館が所蔵するコレクションに関する非デジタル情報（印刷物や手書き等）をオンラインで取り込むポータルサイトを立ち上げました。



この計画の目的は、オーストラリアの博物館が保有する種ラベル、野外ノートや探索記録をデジタル化することです。現在数百名のボランティアが参加しており、既に約7千件の作業が完了しています。ALAでは、まだまだ沢山の仕事があるので、新規ボランティアを募集しています。関心のある方は、<http://volunteer.ala.org.au/> から登録して下さい。

現在、オーストラリア博物館から3件の依頼があります。

その内の2件は、セミ及びスズメガの標本画像のラベルをデジタル記録として入力することです。収集者名、採取場所、採集日、同定情報などのデータを該当する欄に転記します。入力データは、専門家が確認し、必要に応じて修正を行った後、[ダーウィン・コア・メタデータ形式](#)により、標本データベースの改定に用います。

もう一つの案件は、1930年代に、昆虫を採集し、美しいイラストを描いたことで知られるスコット姉妹が残した手書きの昆虫探索日誌について、画像データを元に書き写すものです。

まもなく公表予定の案件には、オーストラリア博物館所蔵のヨコバイの標本記録の転記やオーストラリア連邦科学産業研究機構 (SCIRO) が管理するオーストラリア国立昆虫コレクションに含まれるセミの標本に関するものがあります。

このようなプロジェクトに参加することによって、あたかも、過去の標本採集家と一緒に野外で活動しているような体験ができることでしょう。

各ボランティアが行った作業量を示す掲示板のコーナーもあり、転記したラベルや日誌ページ数に応じた順位が表示されることによって、作業の励みとなっています。

フランス語版GBIFトレーニングマニュアル 発行される

GBIFによる最初のトレーニングマニュアルである『*Digitization of Natural History Collections* (自然史コレクションのデジタル化)』に含まれる6冊の冊子が、フランス語で発行されました。

このマニュアルは、デジタル化計画の開始方法、生物多様性データの品質及びクリーニング、地理参照情報の追加、機密データの取り扱いの他、さまざまな生物多様性データの用途について解説したものです。今回のマニュアルは、GBIF、ベルギー開発協力機構 (DGD)、王立中央アフリカ博物館 (RMCA、ベルギー国テルビュール) 及びGBIFフランスの協力によるものです。

冊子は、[GBIFオンライン・リソース・センター](#)から入手できます。

ノード用ウェルカム・ボックス発表

GBIF理事会と併せてブエノス・アイレスで開かれた各国ノード会議の席において、GBIFノード・ウェルカム・ボックスv.1.0 (WBox) が発表されました。

このWBoxは、新たにノード管理者となった方やノード管理チームに対して、GBIFを紹介する他、生物多様性情報機構 (BIF) を設立する方法について案内するものです。資料は、GBIFオンライン・リソース・センター (www.gbif.org/orc) から入手できます。WBoxのCDが欲しい場合には、wbox@gbif.orgまでご連絡ください。バージョン1に対するコメントも歓迎です。

公表データ

新規データ公開機関

タンザニアにあるムヒンビリ健康科学大学伝統医学研究所は、植物標本コレクションから4021件のデータを公表しました。国内のいろいろなところで採取された薬草がコレクションの中心です。この研究所では、タンザニアの伝統的治療法の研究をしており、医薬品の開発につながる物質を探求しています

(<http://data.gbif.org/datasets/resource/13540>) 。

アメリカのNPO団体であるEcoceanは、世界で最初のイトマキエイのデータベースであるMantaMatcherライブラリのデータを公開しました。公開されたデータは、観察されたイトマキエイの写真とリンクされています。個々の個体を識別すると共に、個体群の追跡ができるように、写真には模様やマーキングを確認することができます (<http://data.gbif.org/datasets/resource/13529>) 。



その他のデータセット

オーストラリアの鳥類保護団体であるバーズ・オーストラリア (Birds Australia) から、740万件のデータが GBIFデータ・ポータルに提供され、インデックス付けが行われて、検索することができます (<http://data.gbif.org/datasets/resource/13030/>)。

デンマーク自然史博物館では、タンザニアの鳥類資料 9585件のデータを公表しています。自然史博物館の一部門である動物博物館では、タンザニアに生息する鳥類に関し、最大級のコレクションを有しており、今回のデータは、18目64科283属621種の鳥類に関するものであり、1475件の画像リンクが含まれています (<http://data.gbif.org/datasets/resource/13546/>)。

スロバキア植物研究所では、国内の植物園が所有する、在来植物や国外に生息する植物に関し、10万件を超えるデータを公開しました (<http://data.gbif.org/datasets/resource/13502/>)。

今後のイベント予定

東アフリカ生物多様性データ・情報管理コース

2011年12月4～6日及び2011年12月～2012年1月、ルワンダ、キガリ

アルバーティーン地溝帯保全協会 (ARCOS) では、当該地域における生物多様性情報システムの強化を目指した事業の一環として、2回のワークショップを開催します。最初のワークショップは、データの統合、計画、デザイン及び検査を内容としたもので、2011年12月4～6日開催予定です。二回目のワークショップでは、データの検証・妥当性確認、規格、配信、要約、解析、報告の他、公開方法やフィードバックについて取り扱います。両セミナーとも、ブルンジ、コンゴ民主共和国、ルワンダ、タンザニア及びウガンダから参加者を受け付けています。

詳細については[こちら](#)をご覧ください。

GBIFフランス主催生物多様性データ解析・活用ワークショップ

2012年1月～2月、フランス、パリ

このワークショップでは、生物多様性情報ネットワークの責任を有する研究者やデータ公開者等を対象として、GBIFが仲介するデータにアクセスする種々の方法やそのようなデータを活用する方法について紹介します。

詳細については[こちら](#)をご覧ください。

永久識別子に関するトレーニングコース

2012年2月8～10日、スペイン、マドリッド

このワークショップでは、永久識別子に関する生物多様性情報ツールの開発に携わっているチームに対し、識別子の発行、使用、公開及び解決に関するトレーニングの場を提供します。

詳細については[こちら](#)をご覧ください。

VertNet生物多様性インフォマティクストレーニングワークショップ

2012年6月24～30日、アメリカ・コロラド州ボールダー

VertNetでは、第一回目の生物多様性インフォマティクス・ワークショップの参加申し込みを受け付けています。このセミナーは、生物多様性データの一次情報源を取り扱いに関するトレーニングを行うものであり、大学生や大学卒業から数年の方、若手大学院研究者が対象です。応募資料は、<http://vertnet.org/about/BITW.php>から入手できます。

GBIFのVision: 科学、社会及び持続可能な未来のために、生物多様性情報が全域で自由に利用可能な世界の実現を目指します。

GBIF本部

Universitetsparken 15
DK-2100 Copenhagen Ø
Denmark

<http://www.gbif.org/>

GBIFのMission: 生物多様性情報を提供する世界随一の情報発信源となると共に、環境と人類の福祉に役立つ賢明な解決策を提供することを目指します。

電話: +45 35 32 14 70

Fax: +45 35 32 14 80

E-mail: info@gbif.org

過去のGBits ニュースレター・アーカイブ:

<http://www.gbif.org/communications/resources/newsletters/>